

教皇さまの
意向のために祈りましょう

- ①一般：沈黙の価値の再発見
②宣教：迫害に苦しむキリスト者
③日本：移動者への配慮



発行所 カトリック長崎大司教区 広報委員会
発行人 カトリック長崎大司教区 広報委員会
〒852-8113 長崎市上野町 10-34
カトリックセンター内
TEL095(843)3869 FAX095(843)3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp
印刷所 株式会社 藤木博英社
〒850-0852 長崎市万屋町 5-13
TEL095(821)2146 FAX095(821)2148

無垢であるうと努め、まっすぐにしようと思えよ。平和な人には未来がある。 詩編37編37節

あなたも平和の宣教者

カトリック平和旬間2013 (長崎の祈り)



広島ピース・スタデー

8月5、6日、教区平和推進委員会(委員長 岩村知彦神父)は「広島ピース・スタデー」を実施し、高見三司大司教同行のもと、中高生24人、大人10人が広島を訪問した。

初日は世界平和記念聖堂(広島教区カテドラル)で、米国の詩人アーサー・ビナードさんによる基調講演「アメリカの『原爆館』と『無知』を聴き、続いて映画『運命の背中』を鑑賞した。夕方には平和記念公園で聖公会との合同慰霊祭で祈りをささげた後、聖堂に向けて行進し、ミサにあずかった。6日は「原爆・すべての戦争犠牲者追悼ミサ」に参加。原爆ドームの見学と、広島市内の殉教地巡礼をもつて日程を終了した。

参加者は「みんなで一緒に進んだこと、心一つになって聖歌を歌ったことが印象に残った」「平和行事の雰囲気、長崎とは違った感じがした」など、それぞれの感想を胸に帰路についた。

原爆・戦争犠牲者追悼ミサ

8月6日朝8時、原爆・すべて

の戦争犠牲者追悼ミサ(教区平和推進委員会主催)が、4人の司祭の共同司式、信徒ら約30人の参加のもと浦上教会被爆マリア小聖堂で行われた。

同時刻に広島・世界平和記念聖堂で行われるミサと同じ聖歌、同じ典礼が使用されるこのミサは今年で4回目。説教師を務めた濱口末明神父(神言修道会)は、自身が黙想した際に読んだ本の一部を紹介し、「敵を愛しなさい」という言葉は敵を敵のまま愛するのではなく、敵が敵でなくなるように愛しなさいということであり、それがイエスの教えた平和の道を歩んでいくキリスト者の使命である」と語った。

第41回原爆殉難者慰霊祭

8月8日午後7時から、長崎県宗教者懇話会(会長 野下千年神父)主催による第41回原爆殉難者慰霊祭が、長崎市松山町の原爆落下中心地公園で行われた。

仏教系、神道系、キリスト教系、そしてイスラームのそれぞれの法衣をまとった宗教者が参集し、雅楽、聖歌、舞による祈りがささげら

れ、原爆殉難者を慰霊し、平和を祈った。宗教者懇話会を代表して追悼の言葉を述べた久志利津男神父(中町教会)は、被爆者であった自身の母との思い出を交えながら、平和は与えられるものではなく与えるものだとし、世界平和構築を誓った。教皇庁正義と平和評議会議長ピーター・タークソン枢機卿も、寛容とゆるしによる平和の実現を訴えた。式典の終わりに「長崎の祈り」を全員で合唱し、長崎からの平和への思いを新たにしました。

片道2時間半かけて平戸から参加した女性信徒は「昨年は雨、今年は大変暑い中での式典でしたが、いろんな宗教の方々と一緒に祈ることはとてもすばらしいことです」と感想を述べた。

平和祈願祭

8月9日、平和祈願祭(教区・同実行委員会主催)が長崎で行われ、たいまつ行列とミサを通して平和の祈りがささげられた。今年のテーマは「あなたも平和の宣教者」となっており、祈りを込めて「午後6時半、平和公園での出発式の後、7時から行列を開始。たいまつ行列には高見三司大司教をはじめ、ピーター・タークソン枢機卿、駐日教皇大使ジョセフ・チュノット大司教、宮原良治福岡司教、浜口末男大司教、前田万葉広島司教と巡礼団40人、韓国・光州教区から玉賢進補佐司教と巡礼団25人、韓国如己の会22人、アメリカからWEA(世界福音化同盟)25人、大阪大司教区の巡礼団16人も参加した。用意されたたいまつ700本、子ども用ペンライト60本をそれぞれ手にした「平和の宣教者」たちは、ロザリオを唱えながら浦上教会へ向かった。

浦上教会での平和祈願ミサには、平山高明名誉司教も加わり、修道者・信徒合わせて約1200人が参加。高見三司大司教主司式のもと司祭55人が共同司式し、被爆者や戦争犠牲者、東日本大震災被災者のために祈った。

7月23、28日、ブラジルでワールドユースデー(WYD)リオデジャネイロ大会が行われた。日本の教会は62人の公式巡礼団(団長・浜口末男司教)を組み、長崎からは青年3人と大瀬良直人神父(黒島教会)が参加。現地に住む人々との交流や司教によるカテケーシス、十字架の道行などに参加し、教皇フランシスコが司式するミサなどを通して、世界各地から集まった青年らと共にキリストの受難と復活の神秘を味わう巡礼の旅を体験した。

“行って、すべての民を弟子にしてください”

最終日、閉会ミサが

者のために祈った。

説教師を務めたタークソン枢機卿は、「真の平和を追求するために必要な心構えは、『悔い改めと謙虚な心』であり、この心構えの上に神の愛による無償の賜物として真の平和と幸福が与えられます。愛と平和を注ぐ神を本として、ながら、熱心に平和のために働きましょう」と呼び掛けた。

同日、原爆投下時刻に合わせて11時から広島教区カテドラルの地下聖堂でミサがささげられ、長崎で祈る人々と長崎に思いを向けて祈る人々の祈りが一つとなった。

聖母平和祈願祭

8月15日聖母被昇天の祭日に、アルカスSASEBO(佐世保市)



原爆・戦争犠牲者追悼ミサ



原爆殉難者慰霊祭



聖母平和祈願祭

で聖母平和祈願祭が開催され、約1200人が平和を願い集った。佐世保地区長の葛嶋秀信神父と山内茂雄地区評議会長のあいさつに始まり、第一部では鹿子前小教区有志聖歌隊、大崎保育園園児、聖和女子学園高校生らが、聖歌や和太鼓、合唱を披露した。終戦記念日にも当たるこの日、戦死者と震災被災者を思いながら集い、共に歌うことを通して、平和への祈りとした。

第二部のミサは、侍者団40人を先頭に司祭団と高見三司大司教が入場して始められた。大司教は、「平和は一人一人が作り続ける努力がなければ、壊れていくものである。各々が身近な関わりから平和を実現する神の子どもになるよう」と説いた。



右から浜口末男司教、島本可菜さん、橋本裕紀さん、大隈直人神父

●WYDすべての行動を通して、あらためて「出会い」と「慈愛(隣人愛)」が大切だと身をもって感じました。どんな時にも出会いに感謝し、子どもから大人まで教会に入りやすいように、まずは自

●本大会中、十字架の道行が終わってからの黙想・気持ちの持ち方に、周りとのギャップがあり疑問を抱きましたが、世界の青年たちから注目を受ける中、日本巡礼団の青年がアジア代表として主要な式典の舞台に立つことができたので、これから信仰生活にいかしたいと思う。浦上教会・大隈衣織

あるかもしれないが、この捉え方もまたさまたげ。一言だけ言わせていただくと、教会には信徒が含まれている、ということだ。信徒が求めている司祭像を軽視するわけにはいかない。▲理想の司祭像を列挙すると、きりがなが、基本は互いに仲良くする能力を備えていることに尽きると思う。司教と司祭、司祭同士、司祭と信徒が仲良くあることは、福音宣教の基盤となる。▲「参加し、交わり、宣教する。」が、まずは「仲良くする」ということを具体的に実践することから始めてみたいと思う。(S)

「司祭の転任は常に栄転。」これは、先輩司祭の言葉だ。そもそも地位や名誉を求めているわけではないので、栄転という概念と司祭の転任は結びつかないと思うが、言いたいことは必ずばりこうだ。司教様の辞令はありがたく頂戴しろ。▲辞令をいただく、司祭は記された日付までに赴任地に赴任する。ただし、新任地が小教区だとは限らない。常に栄転とはいえないが、気持ちには複雑だ。▲新しい司祭を迎える側も、いろいろあるようだ。年齢、性格、評判など気になつてしまうが、司祭の派遣は神の恵みだと承知しながらも、気持ちには複雑だ。▲神学生の頃、院長神父様が言われた言葉を思い出す。「あなたたちは自分がなりたい司祭にはなれんとよ。教会が求めると司祭にしかないと。」▲では、教会とは何か、ということになるが、この捉え方もまたさまたげ。一言だけ言わせていただくと、教会には信徒が含まれている、ということだ。信徒が求めている司祭像を軽視するわけにはいかない。▲理想の司祭像を列挙すると、きりがなが、基本は互いに仲良くする能力を備えていることに尽きると思う。司教と司祭、司祭同士、司祭と信徒が仲良くあることは、福音宣教の基盤となる。▲「参加し、交わり、宣教する。」が、まずは「仲良くする」ということを具体的に実践することから始めてみたいと思う。(S)



信仰年連載企画
長崎はなぜ長崎を棄てるのか ⑪

信徒の使徒職を生きる

―生活とことばによるあかし―

オプス・デイ 尾崎 明夫

信仰を隠す？

いつか聞いた話です。教会であるお葬式で、信者の喪主が出席した友人から「君がカトリックだったとは知らなかった」と言われたそうです。これには考えさせられました。友人なら、相手の家族構成や趣味などは日常の話の中で話題になることで、信者であることが知られていなかったとしたら、それを隠していたのだらうと残念に思いました。カトリックであると知られるのが恥ずかしくなかったのでしょうか。

主は言われました。「私と私の言葉を恥じる者に対しては、人の子もまた(審判のとき)その者を恥じるであろう」(ルカ9:26)と。もし子どもが自分の父親のことを恥じて友達に黙っているなら、父親は悔しいでしょう。「私のために死んでくださったキリスト」(ローマ5:8参照)を恥じるような者にはなりたくないと思います。

ところでキリシタンたちは、今とは違って信仰のために命や財産を失う危険の中で生きていました。信仰を隠すことなどしませんでした。ある宣教師がこう書いています。「我ら、当地の異教徒の改宗に従事する者を大いに喜ばせることの1つは、新たに帰依した人が洗礼の恩恵によって熱意を抱くのを伴うことである。すなわち、洗礼を受けること、たちまち彼らは我らの主なるデウスから授かった知識を多くの人に分かちつことを無上の喜びとするのであり、聖なる事のみならず、司祭から受けたものは何であれ、いとも深い崇敬の念をもって語る」(1572年「イタリア人アレッシヤンドゥ・レ・ヴァラレージオの書簡」)

人は自分がよいと思ったものを、他人にも伝えようと思います。よい映画を見て感動したなら、その映画を人に薦めませんか。信仰も同じです。キリシタンは信仰を価値のある賜物だと考えていたことが分かります。それには宣教師たちの強い信仰と立派な人格の影響が大きかったのでしょう。現代の信者が熱心でないなら、教える側の責任も小さくないと自戒せざるを得ません。

信徒使徒職とは

さて、このキリシタンたちのしたことが信徒使徒職です。第2バチカン公会議によれば、信徒使徒職はまず信徒が自分のいる場所、つまり家庭や仕事場で個人的に周囲の人々にキリストを伝えることです(教会憲章35)。キリシタンたちは宣教師が他の地方に出かけている間に、家族や親戚村の人たちに信仰を伝えていました。でも、どうやって。特別なことをしたわけではなく、単に模範と言葉によってです。

社会の中に住んでいると、自然に色んな人と接触を持つようになります。もし私たちが、見せびらかすことなく、しかし隠すこともなく信仰を生きるなら、周囲の人々はそれに気づきます。例えば、すぐに毎週日曜日は教会に行くことが知られます。すると「君はなぜ日曜日に教会に行くの」と聞かれるでしょう。そのときこそ「デウスの知識を多くの人に分かち」機会です。丁寧に優しく説明しましょう。万物の創造主がいること、人間はその創造主を礼拝し感謝をする義務があることなど、キリスト教の基本的な教えを。他に、子育て、家族や仕事、政治や経済の問題などについて話すとき、それも神様と教会の教えを紹介するよい機会になります。

あなたの職場で

もし司祭である私が、ラーメン屋に行き、そこで働いている人に「君はキリスト教について興味がありますか」と尋ねたとしたら、にべもなく「ありません」と断られ、「すみません」と言っ店を後にするのが関の山でしょう。でも、もし、その店の店員にしっかりと仕事を信者がいて、彼が同僚に同じ質問をしたら、たとえ「そんな話に興味がない」と断られても、その同僚は少なくとも、自分

と同じような普通の人間が神を信じることにあるのだと知ることになります。これは大きな事です。まずキリスト教は奇妙な宗教ではないことを知ることになり、そしていつか人生の問題に突き当たるとき、その信者の友達に相談しようとするでしょうから。そのとき信者がお茶を飲みながら話すことは、司祭が説教台から話すことよりずっと心の深いところに届きます。あるいは、「これ以上は僕には分からないから、興味があったら教会の神父さんに紹介するけど、どう」と言っ、教会に連れてくる事もできます。

このことはラーメン屋だけではなく、学校で、会社で、お店で、工場、病院で、また政治や金融やマスコミや芸術の世界でも同じです。そういう場所に司祭や修道者が入っていても、誰も仲間として見てくれないのです。その職場で長年苦業を共にし働いてきた信者こそ、最も自然にキリストを伝えることができるのです。

信仰を伝えるために、家庭訪問をしたり広場で演説をしたりする必要はありません。まずもって社会人にはそんな時間はなない。その代わりに、「生活によるあかし」ができます。日頃からまじめに働き、家庭を大切にすること、言い換えるなら、社会の中でのよい同僚、よい友達、家庭の中ではよい夫、よい妻、よい親になるよう努めることです。同時に、周囲に私たちがカトリック信者であることを知ってもらいましょう。その上で、言葉で説明しましょう。公会議

は「信徒は生活によるあかしを、ことばによるあかしによって完成する」(信徒使徒職に関する教令13)と言っています。たとえば、こちらの言うことに反対されても、腹を立てることも落胆することもなく、できるなら付き合いを続けてください。信仰や意見が違っても、互いに相手の考えを尊重しつつ、友達であり続けることができるはずで、でなければ本当の友情とは言えません。使徒職とは友情を聖化することです。

祈りと教義の勉強

このように振る舞うことができるためには、「あの人はよく働く」という評判を得ることの上に、二つのことが必要です。まず神様との親しさを強めること。そのためミサと告解の二つの秘跡、そして祈りを大切にすることです。上に見たように、神を愛していないければ神について人に話すことはできませんし、神の恩恵がなければ使徒職は実りを結びません。「私を離れては、あなたがたは何もすることができない」(ヨハネ15:5)からです。

次に、私たちが自分の信仰の内容を理解し納得していることです。納得していないことを他人に説明することはできません。現代の私たちはキリシタンに比べてずっとたくさん知っています。

知る必要があります。進化論やビッグバン(この理論を最初に言い出したのはカトリックの司祭です)などの科学の問題、また生命倫理をはじめさまざまな最新の倫理問題など、16世紀には存在しなかった問題を理解しておかねばなりません。

そのために『カトリック教会のカテキズム要約』が役に立ちます。勉強会もあちこちでやっています。でも教義を全部知らなければ伝えられないというわけはありません。うまく説明できない場合、「これは今わからないから、調べてから答えます」と言えはいいのです。私もよくそうします。そして司祭が誰かに尋ねたり自分で本を読んだりして、学んでいくのです。

神を信じることは非科学的なことではありません。世界では多くの一流の学者が神を信じているのです。またカトリックの道徳は恥ずかしいことでもありません。恥ずかしいのは罪を犯すことだけです。世の中には悪いことをしながら堂々と生きている人がたくさんいるではないですか。教会の道徳は善を勧めるものだから、堂々と実践するよう努めましょう。そのように生きるなら、時間はかかるかもしれませんが、あなたの家庭、あなたの仕事場に変化が起こり、長崎の教会も活発になるはずで、それが現在ベトナムや韓国で起こっていることなのです。

徒歩巡礼と祈りの集い

紐差小教区の信仰年の取り組み



紐差小教区(紐差・大佐志・木ヶ津教会)では、信仰年の取り組みとして6月23日、徒歩巡礼とロザリオの祈りの集い

を行なった。徒歩巡礼では、参加対象を小学生高学年以上の信徒とし、紐差教会をゴールに大佐志教会から紐差教会まで(12km)と、木ヶ津教会から紐差教会まで(4km)の2コースを設定。参加者は希望のコースをそれぞれのペースで歩いた。ロザリオの祈りの集いは対象を全信徒とし、紐差教会聖堂において信仰年における各教会の意向としてロザリオの祈りをささげた。小さな子どもからお年寄りまで約100人が参加した。終了後は「女性の会(旧婦人会)」

旧出津救助院で子ども黙想会

自分たちで焼いたホスチアで感謝の祭儀

7月23日、大野・皆瀬・天神・早岐教会の子どもたち(小学生57人、中学生6人)の黙想会が、今年4月に開館した旧出津救助院で行われた。



チパネルで探したり、スタッフのガイドに尋ねたりして解いていった。それから、ド・ロさまそうめんやド・ロ神父が開墾した畑で採れた作物を使った昼食をとった。午後からは、ド・ロ神父が取り寄せ、当時から大切に使用していた重さ5kg以上に及ぶホスチア焼きで、感謝のミサでいた。主に中学生が炭火で焼く作業を、小学生は切る作業を体験した。救助院では、ガイドが常に案内して、ド・ロ神父の精神を伝え、また季節によってさまざまな体験もできる。詳しくは救助院(TEL0959・25・1002)まで。

信仰年に読みたいベトロ文庫最新刊

◆教皇ヨハネ23世 回勅 パーチエム・イン・テリス―地上の平和―

第2バチカン公会議を招集した教皇ヨハネ23世が、死の直前に書き上げた社会回勅。当時の東西冷戦の危機的状況を踏まえ、真の世界平和構築を呼び掛けた愛のメッセージ。カトリック中央協議会、588円。

◆教皇パウロ6世 使徒的勧告 マリアリス・クルトウス ―聖母マリアへの信心―

第2バチカン公会議『教会憲章』の教えと、その後の典礼刷新などを踏まえ展開される、教皇パウロ6世の代表的マリア論。カトリック中央協議会、630円。お近くのキリスト教書店、一般書店でご注文ください。

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社
西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社: 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL (0956) 31-8268

(医) 外尾内科医院

院長 ベトロ 外尾 明利
〒857-1152 佐世保市黒髪町34-4
TEL0956-33-5557

主の平安
株式会社 五島式典社(斎場) 五島中央会館
奈留会館
代表取締役 ヨゼフ 浦 昭
24時間営業
五島市上大津町1385番地1 TEL (0959) 74-5551
FAX (0959) 74-5552
五島市奈留町浦1899-1 TEL (0959) 64-3101
FAX (0959) 64-3102

なが さき せき ちよう
石 碑
納 骨 堂
墓地工事
墓地分譲
(高尾・本原他)
ヨゼフ 岩永 博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町6-17 岩永ビル

召命促進委員会

呼ばれていますいつも

教区召命促進委員会(委員長・岡秋美師)は、夏休みに合わせて2つの行事を企画した。子どもたちが、自分自身の召命と受け継いだ信仰の尊さを考える機会となることを願う。

高校生召命キャンプ

8月12・13日、高校生召命キャンプが伊王島で開催された。教区内の高校生24人、スタッフとして純心聖母会のシスター、召命促進委員会の司祭が参加した。

まず「召命について」の講話があり、その後司祭、シスター、信徒それぞれの召命体験談を聴き、グループに分かれて分かち合いを行った。慣れないながらも、高校生たちの信仰についての率直な意見が出された。またバーベキュー、ミニバレーボール大会で汗を流し、親睦を深めた。

2日目は馬込教会でのロザリオ、ミサから始まり、分かち合いの発表、決意文、そして海水浴で締めくくった。

短い時間ではあったが、高校生同士はもちろん、司祭やシスターとも親しくなることができた。有意義な時間を過ごすことができた。高校生たちの感想でも「自分の信仰や召命について見つめ直すことができて、とてもよかった」という声が多数聞かれた。

召命フェスティバル

8月19日(月)、雲仙メモリアルホールにおいて召命フェスティバルが開催された。各小教区から200人以上の小学生をはじめ、引率の信徒、修道者、司祭合わせて約350人が参加した。



この大会、今回は長崎南地区を中心に準備が行われてきた。フェスティバルの始めに行われた召命祈願ミサでは、子どもたちが朗読・オルガンなどの典礼奉仕を担当した。またこのミサの献金(計1,017,268円)は、東日本大震災の復興のためさげられた。

午後には雲仙地獄にある殉教地を巡礼し(写真)、会場に戻ってからは司祭やシスターによる劇・バンド演奏・コーラス・応援団などの出し物が披露され、会場を沸かせた。最後に、長崎南地区の各小教区・修道会が作成した共同体の紹介バ

下五島地区の取り組み

ミゼリコルディア構想に向かって

教区福祉委員会では、第4期活動計画の最優先目標として、「福祉活動を通してキリストの愛を表現する教会へ向かうこと」(ミゼリコルディア構想)を掲げている。この構想に向かって、下五島地区の福祉活動が始まった。

福江と浦頭の両教会で

各地で子どもスポーツ大会

上五島地区

7月28日、上五島地区の11小教区から15チームが参加して、第3回子どもドッジボール大会が新魚目総合体育館(新上五島町)を会場に開かれた。

試合の前に前年度優勝の土井ノ浦教会から優勝旗が返還され、各教会とも熱戦が繰り広げられた。午前中の試合結果を

もとに、午後からは順位決定戦が行われ、上位進出を目指す相手チームからも応援を受ける高いレベルの試合となった。

優勝は桐教会チーム2、準優勝は仲知・曾根チーム、第3位は丸尾チーム2。

長崎3地区

8月6日、長崎地区子どもドッジボール大会がシーハットおおむら(大村市)で開催され、18教会21チーム、372人の選手が参加した。

年々、参加人数が減少傾向にある中、子どもたちははたたくさんの応援団に見守られ、練習の成果を十分に発揮した。自分たちの教会の応援だけでなく、試合を終えたチームが他のチームを応援している姿も見られ、主催者は「子どもたちが小教区をこえて互いに交わり、支え助け合っていくことを今後も大切にしてほしい」と語った。

優勝は浦上、準優勝は中町、3位は木鉢の各教会。

佐世保地区

8月10日、ドッジボール大会が佐世保市の振興会体育館において開催された。20チーム約200人の子どものうち倍以上の応援団で会場は熱気に包まれた。強い日差しにも負けず子どもたちのプレーに大人も動かされ、試合を見守る応援も熱を帯びた。汗と涙、大きな声援とわが子と思う祈りが入り混じった。

Aパート優勝・早岐、準優勝・黒島、3位・大崎B。Bパート優勝・大野A、準優勝・浅子、3位・天神太田尾連合。Cパート優勝・大崎A、準優勝・大野B、3位・太田尾。

折りのうちに、良いと思うことを積極的に実践しながら福音宣教に生きる信仰と信念の人であった。2005年からロザリオの聖母修道院で療養していたが、2年前からは病床ですべてをささげる日々となっていた。



アントニア 松下ミネ修道女

(長崎純心聖母会)

7月13日、汎血球減少症のためロザリオの聖母修道院で帰天。85歳。

現できたらと願っている。

教区福祉委員会 委員長 岩崎晋吾



ふいつて園

▼公開典礼講座「典礼の刷新」何が変わり・なぜ変わったか」 9月23日(月)10時・15時30分、カトリックセンター。参加費500円、教区典礼委員会主催。申込先・教区生涯養成委員会。

TEL 095・841・7731 FAX 095・841・7732

▼聖トマス西と十五殉教者祭 9月29日(日)14時、中町教会。

▼島原宣教450年・有馬川殉教400年 ①24時間の聖体礼拝と黙想 10月12日(土)11時・13日(日)11時。②記念ミサ 10月13日(日)13時・14時30分。③④とも原城本丸跡。

▼聖フランシスコ病院ホスピス開設15周年記念講演会「その人により添う」 10月12日(土)13時30分・15時40分、カトリックセンター。参加費無料。問合先・聖フランシスコ病院。

TEL 095・846・1888

▼公開聖書講座 10月20日(日)13時・16時、カトリックセンター。講師・澤田豊成師(聖パウロ修道会)。前売券800円・当日券1000円。申込先・教区生涯養成委員会。

TEL 095・841・7731

▼133回クルシリヨ 11月1日(金)・4日(月)、イエズス会立山修道院。問合先・永山悦子。

TEL 095・879・3611

感謝

― 香典返し ―

長崎カトリック神学院 ●生田紀代子様(浦上) 故マテオ生田 勲様

右の方からご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

「教区シノドス中央委員会」は、教区司祭黙想会の初日(6月4日)の午前中を、臨時に「教区シノドス」準備に割り、大司教館会議室で研修会を開催した。内容を2回に分けて報告する。

「教区シノドス」とは何か

まず、教区神学顧問・宮川俊行師が「現代カトリック教会における『教区シノドス』」と題して講演した。要旨は次の通りである。

第2バチカン公会議は、長い間支配的であった「教会を聖職者中心の位階制構造の社会」とする真理を過度に強調する神学」の影に不当に覆い隠されてしまっていた「教会は神に招かれ、洗礼の秘跡によって神の子とされた者全員からなる『平等者』の共同体である」という重要なもう一つの真理を確認した。全受洗者は自分たちの信仰共同体である教会の問題と真剣に取り組む責任と委託を一人一人が神から受けているという、信仰に基づく連帯と交わりと協働の神学である。

その結果、公会議後の教会で大きな関心を集めるようになったものの一つが「教区シノドス」の制度である。こ

《連載・教区シノドスから恵みの年へ》 教区シノドスに向けて司祭団臨時研修 (上)

「教区シノドス」を開催する必要があると判断したら司祭は教区司祭評議会の同意を得て開催すべきである、とされている。費用や手間がかかり、相應しい準備を行った上での開催でなければ充分な効果は期待できないので、第2バチカン公会議後の過去50年間、世界的には開催事情はまちまちである。なお注意しなければならないのは、「教区シノドス」思想は世俗政治における民主主義思想とは関係ない、信仰

に基づく固有の教会理解から生まれた考え方だということである。次に私はシノドス中央委員長の立場から、なぜ、今、教区シノドスかという問題を取り上げ、今回の「教区シノドス」の重大な意義に全員の注意を向けようと努めた。

事の記念の年・2015(平成27)年を絶好の機会と捉え、「教区全体」でこれまでのなまぬるい信仰生活の在り方を反省し新しい教会として再生する恵みの年にしよう、と「教区シノドス」開催を決定し公示された。この機会に全教区民一致して徹底した自己吟味を行い、信仰刷新を行おうという大司教の教区民全体への呼び掛けは2010年以来繰り返し行われてきた。「教区シノドス」は「全教区民」の代表者の会議だが、本来司祭は司教の司牧活動の最も重要な協力者である(司教教令30)ので、この問題についても責任は非常に重い。そのために全司祭が協力して「教区シノドス」を成功させねばならないと思ひ、あらためて理解と協力を訴えた。

準備の現段階と今後の予定

準備の進捗状況と今後の予定については、次号で報告する。

教区シノドス中央委員会

委員長 山脇守

聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会全国大会 先人たちの信仰に学び、愛を受け継ごう

長崎中央理事会会長 荒川 澄



13日から15日までの3日間、第25回大会を長崎カトリックセンターで開催しました。2001年以来、12年ぶりの長崎開催でした。

今大会のテーマは「先人たちの信仰に学び、愛を受け継ごう」。愛徳姉妹会(聖ヴィンセンシオ)につながるファミリー組織の総指導長パドリック・グリフィン神父様(パリ在住・聖書学者)と純心大学教授の片岡瑠美子シスター(長崎純心聖母会)をお招きし、大司教区の後援をいただき、初日に記念講演会を開催しました。

全国大会 聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会(SVP)の日本全国組織、日本全国理事会(本部・東京田園調布教会)は3年ごとに全国大会を開催していますが、去る7月

■ベトザタの池

さあ、君も池に行つて、水に入るがいい。君の病は癒やされる。癒やしの力をもつベトザタの池(ヨハネ5・2)のほと

りには、病に苦しむ人々が群がっていた。ところが、やつかいな池なのである。水に入りさえすれば、願いがかなう、そんな池ではない。池では、しれつな戦いが待ち受けていて、互いに競い合わねばならなかった。癒えるのは最初に着水できた者だけだった。遅い者や弱い者には、恵みや救いはない。人に先んじなければ、癒やしは手に入らないのである。ここは池というより、競技場に近い。激しい戦いが繰り広げられ、勝者が生まれるトラックのようなものなのだ。近くにこんな池があったら、みなさんは

みことばにふれて 98

山川 忠神父
(カトリックセンター)



病人のいやし
カット・松下 采佳さん
(三ツ山教会・小4)

て、一度飛び込んだら、そのままである。決して、池から上がりはしない。上がらなければ、次回にチャンスが巡ってくる。必然的に一番手になる可能性が生まれてくるからである。

韓国への視察巡礼

「聖ヴィンセンシオの愛の業と聖書」

と題された講演の

7月7〜10日、大邱大司教区との姉妹提携の前準備とシノドス経験の見聞、ソウル大司教区への(昨年11月にソウル平協が来崎したことに對する)答礼訪問を目的に、高見三司大司教様をはじめ司祭・信徒ら計15人が視察巡礼を行った。

あいにくの雨と蒸し暑さの中、大邱の曹煥吉大司教様、前々教区長の李文熙大司教様(韓国如己の会総裁)、司祭・信徒役員、民族衣装をまとった婦人部の皆様より心からの歓迎を受けた。私たちが「長崎の鐘」を合唱し和やかなひとときを過ごした。

大邱の第3代教区長だった早坂久兵衛司教様(早坂久之助司教様の実弟)の墓で祈りをささげた。

過去2回のシノドス経験を持つ大邱は今それを具体化する段階に入っており、以前は21・9%だった青少年のミサ参加率が、43%に上昇したそうである。教区から「青少年小教区」として指定されている三徳小教区の20代の若者中心のミサに参加(写真)。大司教専属バンドをバックに、躍動感あふれる若い司祭のパフォーマンスや迫力ある聖歌に驚嘆した。また、ルルドミサには月々土曜日午前11時からという時間帯にもかかわらず、300〜600人が1時間ほど前から個々に祈り集まる。



また、テレビ・ラジオ局、毎日

新聞(日刊紙)、カトリック新聞(週刊紙)、月刊・週刊誌出版局、印刷所などを独自に持ち、政治的・社会的問題に對しても教会が提言し、活発に活動している。大邱最後の夜8時〜10時、20年の歴史を持つ教会共同体の、カテキズム朗読から始まる分かち合いを見学、小共同体を中心にした教会づくりの一端を見ることのできた。

聖マリア学院 幼稚園・保育園・小学校
平成26年度 園児・児童 募集!

Love to Learn and Learn to Love

第2回 小学校オープンスクール
9月28日(土)
・Welcome Ceremony
・公開授業
・学校説明会
・ランチタイム

第3回オープンスクール「音楽祭」
11月16日(土)
入学試験
11月 9日(土)

新校舎 だよ!

〒852-8623 長崎市長崎区6番5号 Tel: 095-844-1549 聖マリア学院

また、キリシタン史を専門とされる片岡シスターは、「日本キリシタンの愛の伝統―慈悲の所作」と題し、「彼らは週2回寄付を集め……これをもって3つの無料診療施設を維持した。その一つは老人・貧しい男子、一つは老婦人・貧しい

婦女子、他の一つは不治の病人など」(グスマン『東方伝道史』)と記されている。慈悲の所作の歴史と、今に引き継がれるその伝統について講演されました。ミゼリコルディアと名付けられたこの組織の本部跡(長崎市万才町)の碑には、「1

614年のキリシタン弾圧後もこの施設だけは残され……『慈悲屋』と呼ばれて後世まで語り継がれました。……今の社会は誇りを保持してこの伝統を受け継ぐ決意を新たにしました。

■先にならねば

人に先をゆずつては、自分の救いは生れない。だれもがそう考える。他者が行く前に、先に私が水に降りねばならぬ。そう考えるなら、病人のままの救いは思いつかないだろう。しかし、病人のままでもいいのである。そのまま、幸せになれる道がある。

■ここに救いが

イエスは言う。「起きて、床を取り上げて、歩きなさい」と。床を取り払い、今までと違う地点に自分を起こし、生きてみなさい、と諭すのである。自分を救おうとするのではなく、人を救おうとするが正しい。先に人を池に入れるがいい。手伝いなさい。そこから自分の救いを考えなさい、とイエスは教えておられる。

ています。

1882(明治15)年に日本初のヴィンセンシオ会が創立された記録がありますが、長崎では1928(昭和3)年のクリスマスに、早坂久之助司教の指導によって「貧しき人―それがカトリック信者なりと否にかかわらず―を訪問し……これに物質的な援助を与へる」ことを目的として「聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会長崎支部」が設立されました。

長崎での活動が大きくなったのは敗戦直後の混乱の時代で、永井隆博士や片岡弥吉先生など優れた先輩たちの活躍が歴史に刻まれています。そして現在、長崎大司教区で8協議会(浦上、大浦、城山、中町、西町、鮑ノ浦、出津、黒崎)が活動しています。

主な活動は、経済的困難にある家庭への物品支援、病院や老人施設への訪問、ホームレス支援組織への金品の援助、海外の貧困家庭への就学支援などです。

また、東日本大震災の被災者に対して、震災直後から仙台の会員と連携しながら衣料品などの支援を行い、現在は浪江町(福島県)から二本松市の仮設住宅に避難しておられる原発被災者に、定期的な生活物資支援を続けています。

大槌ボランティア募集

- 10月17日(木)〜23日(木) (10/2 締切)
- 11月14日(木)〜20日(木) (10/30 締切)
- 12月12日(木)〜18日(木) (11/27 締切)
- 1月16日(木)〜22日(木) (12/24 締切)

定員10名程度。申し込みは所属小教区へ。問い合わせは、教区本部事務局(渡辺)まで。

TEL 095-842-4450 FAX 095-842-4460

『救いのこよみ』

教会のカレンダー(典礼暦)

発行 10月4日予定
価格 200円(送料別)
申込 小教区または下記連絡先まで
教区生涯養成委員会
Tel 095-841-7731 Fax 095-841-7732

ご先祖に心より感謝を・・・

材石 治明

長崎本店 長崎市長崎町13-1 電話 (095) 846-3598
大村店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008

◆第二バチカン公会議公文書 改訂公式訳

典礼書の日本語版や新教会法典の発行に伴って教会用語の訳語の見直しが行われ、公文書の訳文にも改訂が求められていた。本書はこの要望に応えるものである。9月末に発行予定。カトリック中央協議会、3150円。

◆YOUCAT(日本語) 青年向けに書かれたカトリック教会の要理書。難解な用語の使用を避け、Q&A形式の文体で教え全般が解説されている。個人での読書、堅信の準備のテキストとして最適。カトリック中央協議会、1890円。

法人会計事務室・購買部(カトリックセンター内)では、「日本二十六聖人長崎への道巡礼マップ」も取り扱っています。お問い合わせは、Tel 095・846・4248 Fax 095・848・8310まで。